



BAIEIDO-TSUSHIN

梅栄堂通信

Vol.42

'04 春号

愛されて百年、明治の香りが今蘇る。

■創業三百有余年 梅栄堂謹製

九重香

「九重香」は、明治三十六年に発売されて以来、百年を迎え、現存するお線香の登録商標としては、最も古い高級線香でございます。

このような長い歴史を刻んでこられたのも、皆様のご愛顧のおかげと、深く感謝いたしております。

そして今回、百周年の記念商品として、

装いも新たな「九重香」をお届けすることになりました。

気品ある明治の香りを、心ゆくまでをお楽しみ下さい。

標準小売価格 五〇〇円

（消費税別）



創業三百有余年

梅栄堂

〒590-0943 堺市車之町東1丁1番4号

TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672



新年あけましておめでとございます。
本年もよろしくお願ひいたします。

梅栄堂社長 中田尚浩

伝統の香りと、 新しい時代の香り

昨年は、まだまだ厳しいながらも、景気はやっと回復基調に入り、日銀の「展望レポート」では、今年もこのまま回復基調は続くとの予想が提出されており。ただ、個人消費は厳しく、当面デフレ傾向は止まらないとの予想でございます。

このような個人消費の落ち込んでいる環境の中で、皆様喜んで頂けるものは、「何か？」を日頃から考えておりますが、そんなさなか、昨年の二月に発売させて頂きましたコーヒーの香りのお線香「残香飛」が、大変なご好評を頂きました。二年程前、知人から聞いた「お仏壇にコーヒーをお供えする人

が多い」という話をヒントに、それから「コーヒーの香りのお線香があれば喜んでもらえるのでは」と考え、研究を始めました。開発の最中でも「お線香にコーヒーの香りは無理では？」と不安になった時もありましたが、せっかく二年近くかけて完成したので、年間二万個の目標で発売させて頂きました。ところが発売後すぐ、大変な反響を頂きまして、追加、追加で思わぬ

ヒット商品になりました。珍しいお線香ということでマスコミからも五十件近い取材があり、おかげさまで沢山の方々にご愛用頂くことが出来ました。なかでも嬉しかったのは、今までお線香を使われなかった方が、これを機会に、「いい香り」だからと使って頂けるこ

とが多くなったということです。コーヒーのいい香りは、たいてい誰もが好みますし、故人がコーヒー好きならなおさらということなのでしょう。

もう一品、明治三十六年に商標登録して以来ご愛用を頂いております「九重香」ですが、今回斬新なデザインのパッケージで、百周年記念商品として発売させて頂きましたが、こちらもご好評頂きました。

今年も、従来通り梅栄堂本来の伝統の香りを大切にしながら、新しい香りのお線香も開発努力してまいるつもりです。今春には、また新しいタイプのお線香の発売を予定しておりますのでご期待頂きますとともに、今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

お店を訪ねて

大宮高島屋

安心して*お買い物が*できる*雰囲気*を！

二〇〇一年五月、浦和、大宮、与野の三市が合併して誕生した「さいたま市」は、二〇〇三年には全国で十三番目の政令指定都市となりました。中でも大宮駅は、JR京浜東北線、高崎線、宇都宮線、東北新幹線、埼京線、川越線、東武野田線が乗り入れる一大ターミナルで、駅前周辺は県下最大のショッピングゾーンとなっています。今回は、ここ大宮駅東口に建つ、大宮高島屋の仏具売り場を訪ねました。

この仕事に就いてもう十七年になりますが、今回家具とリビングの売り場とも一箱になり、人の流れが随分と変わりました。おかげさまで最近ではこちらの売り場にもたくさんのお客様が来て頂けるようになり、若い世代の方も増えて参りました。

最近のお客様は、時代を反映してか、煙の少ないお線香をお望みの方も多

売場担当
黒澤さん



煙の少ないお線香をお望みの方も多

ますから、「と申し上げると、ご自宅用はともかく、ご進物の場合は「供養のためにお贈りするのだから」と、納得してお求めになる

方もいらっしやいます。こちらはご指名買いのお客様も多いのですが、初めてのお客様からご相談を受けたときには、まずお伺いするのは「ご予算です。いくら良いものでもやはりご予算が合わない」と無理ですから。(笑) それから次にはなんといつても香りが大切な決め手になります。「好文本」などは、本堂に入ったときの香り」と申し上げると大抵の方にすぐ分かって頂けます。また、ご自宅用は中身が大切ですから、「バラ詰め」等のお買い得なものも人気がありますね。勿論、ご進物にはパッケージが大切な要素になります。香りのお話で思い出しましたが、お客様でお盆に使ったちようちんをしまわれる時、箱の中にも二、三本のお線香と一緒に入れるとおっしゃる方がいらっしやいました。不思議に思い、理由をお聞きしたところ、「ちようちんにお線

香の香りをつけて仏様に来年また思い出してもらえようよ」という事でした。勿論虫除けの効果もあるとのことでしたが、なるほどなあと思いました。長年のお客様の中には、この売り場に

人通りの多い東口駅前に建つ、大宮高島屋

雑感スケッチ



売場担当
黒澤さん

煙の少ないお線香をお望みの方も多

香の香りをつけて仏様に来年また思い出

人通りの多い東口駅前に建つ、大宮高島屋



▲フエ王宮の青銅の扉に刻まれた伽羅木

ベトナム鉄道 途中下車の旅

桐葉堂 営業本部長 中田 泰三朗



★ 十三年振りのホーチミン

成田経由でホーチミンへ。夏休みの真最中なのに、SARSの影響なのか機内は空いている。簡単な入国手続きを済ませた後、十三年振りに訪れる市内を眺めながら、宿泊先のコンチネンタルホテルに向かう。さすが観光都市を目指すだけあって、以前宿泊したカラベルホテルはすっかり新しくなり、その横には高層のホテルも建ち並ぶ。翌日、とにかく沈香を求めて漢方薬市場がある中国人街チヨロンへ。店先に沈香の飾りを並べた漢方薬屋があったので中に入る。表に並んでいたのは、いかにも白い木に色をつけたような物だったが、ガラスケースの中から見せてくれた沈香も同じような代物だ。これでも最近では中々手に入らないという。もう一軒、シクロで沈香屋を訪ねたが、期待のできるようなものは無かった。三時頃にスコールとなる。ホテルの向かいのカフェに入り、ビールを飲みながら



南の街を眺める。コンチネンタルホテルの内部は、さすがに歴史とともに老朽化が目立つが、外からの眺めはなかなか情緒がある。少し早いがタクシーでサイゴン駅に向かう。街はラッシュ時のためかホーチミン名物のバイクと自転車で溢れていた。乗車予定のハノイ行き特急S2列車は十二面編成。私の席は十号車の二段寝台、四人のコンパートメントだ。乗客がほとんど増え、いよいよ発車だ。最後まで別れを惜しむ人、出発ぎりぎりに注文の品を持って列車を追いかける売り子など、駅のこんな風景はいつ見てもなかなかいいものだ。同室になったのは全員がベトナム人の女性。行き先はみんなダナンだった。コトシコトシというあの列車特有

のリズミカルな振動を期待していたが、とにかく振動でうるさい。まるで旋盤工場の中にいるようだ。疲れのせいかわ、こんな騒音の中でもいつしか眠ってしまった。ベトナムの朝は早い。六時頃には道路をオートバイ、自転車、列を成し、着々と走っている。国道を走るバスはいまだに屋根に大きな荷物を載せている。ダナンから海のシルクロードとして栄えたホーチミンまでタクシーで約四十分。ホテルにチェックイン後、Quang Binh省の農産物を主に取り扱っている公営会社を訪ねる。突然の訪問に、相手も最初は警戒気味であったが、話すうちに段々と友好的になってきた。沈香のことを聞くと、現在は政府が自生の沈香樹の伐採を禁止しているため、公社でも取り



サイゴン駅にて▶

扱っていないとのこと。ただ、この省では沈香樹の植林事業を行っており、今後五十十年ほどすれば沈香を取り扱えるようになり、価格も安くなるらしいのだが、植林はこの省の秘密事項で、それ以上の話は聞けなかった。新しい沈香が出てきたらサンプルを送るとの事だった。寝台車とホテルのエアコンの効き過ぎが原因で、喉が痛くなり始めた。うっかり熱でも出して、SARSと間違われてはたいへんと、抗生物質と風邪薬を飲む。幸い熱は出なかった。

チャンパ王國の聖地、ミーソン遺跡を訪ねた後、ホーチミンの町でのんびりする。ホーチミンは世界遺産にも登録された街で、三百年以上前には日本街が存在したため、文化歴史博物館には日本とのゆかりの品々が展示されている。沈香とおぼしき物が方

ラスケースに展示されていて、説明にはAncient Siamと書かれていたが、係の人に聞いても誰も詳しくは知らないようだ。ガイドブックでたまたま見つけたオートバイスコープ、春巻き、焼きそばなど、ホーチミンの名物料理がコースになって出てくる。ベトナムでは珍しくよく冷えたビールが出てきて、大変気に入った。しめて日本円にして約六百四十円也。店の真向いの船着場からは、オートバイ、自転車を満載した小さな船が頻りに出入りする。もう暗くなっているのに、電球の一つも付けずに暗闇の中に消えて行く。店内にはシャンソンが流れ雰囲気の良い店だった。タクシーでダナンに戻り、再び鉄道の旅へ。列車は満席だ。水、毛布、そして先日と同じ弁当が配られる。ミネラルウォーターの入ったダンボールを足で蹴飛ばしながら配る風景は社会主義の列車らしい。暫く海岸沿いを走り、徐々にハイバン峠

へと高度を増して行く。頂上付近では歩いては危険なくらいのスPEEDになる。平坦地に下り、スピードが戻ってもトラックバイクに抜かれて行く。それでもダナンーフエ間一〇三kmを、二時間四十分かけて走るベトナム屈指の特急列車だ。ホテルにチェックイン後、王宮へ。顕臨閣 (Thien Lan Ca) はフエの一番の見所。大きな青銅の扉にクエン王朝の特産物が彫られている。伽羅、沈香、桂、梅、虎、象などが描かれている。ホテルへはバイクタクシーで帰る。スリルがあり、料金はUSドルと値打ちがあった。



三百年以上前には日本街が存在したため、文化歴史博物館には日本とのゆかりの品々が展示されている。沈香とおぼしき物が方

暫く海岸沿いを走り、徐々にハイバン峠

翌日、フエ空港からホーチミン、シンガポールを経由して無事帰国。ベトナムではまた個人旅行をするには少々苦勞を伴うが、列車、飛行機等はほぼ遅れもなく快適に旅行が出来た。沈香については、情報の収集はなかなか難しいことを実感した。(終)



◀どかな漁の風景



香りの小部屋

ハノイ

フエ
ダナン
ホーチミン

ホーチミン

三百年以上前には日本街が存在したため、文化歴史博物館には日本とのゆかりの品々が展示されている。

沈香とおぼしき物が方

CHINA

LAOS

THAILAND

CAMBODIA



梅

万葉人も平安人も、
こよなく愛した花

梅は中国の原産。古代(紀元前十一〜十六世紀頃)の遺跡で発掘された銅器内から梅の枝が見つかったことから、随分昔から人々の暮らしの中で梅が利用されていたことがうかがえます。日本への渡来は遣隋使や遣唐使が持ち帰ったという説や、もともと古い時代に稲作などとともに伝来したとされるなど諸説があり、その時期はまだ確定されていないようです。ただ、日本に梅が渡来した頃は観賞用ではなく、漢方や酸味の調味料として珍重されていたようです。しかし、早春の寒さに耐え、凛として咲く梅の花は、日本人の心情に叶ったらしく、瞬く間に観賞用の花木として注目されるようになりました。人気の程は『万葉集』で詠われた「梅」に関する和歌が百十編を超えていることから推測されます。その後平安時代には、寝殿造りの庭園に梅の木を植えることが当時のステイタスと考えられるほどになりました。また貴族は梅の香りもこよなく愛し、衣に焚き染めてその



の香りを競い合ったりしました。練香の「梅花」もその一つ。ただこれは、梅の花から作られたものではなく、沈香に占唐、甘松、丁香、麝香、薫陸などを加えた合香で、梅の花のイメージで作られたものの、実際の香りとは少々違っていたようです。梅が現在のようになつたのは、思ったより遅く十七世紀に入ってから。今では品種も増え、「花梅」で三百種以上、「実梅」で約百種に及んでいます。余談になりますが、梅栄堂のお線香「好文木」「古香」「残香飛」は、梅の木と深いかわりがあります。「好文木」は晋の武帝が学問に親しむと花が咲き、怠ると花が咲かなかったことから梅の木を「好文木」と名付けたことに由来しています。また、「古香」は梅そのものを指し、「残香飛」は明の詩人、高敏の詠んだ詩の中にある「梅林に続く沢にある飛び石」のことで、早春の頃、この石を渡る、ほのかに梅の香りが漂ってきたといわれています。今春はさわやかな梅の香りと共に「残香飛」の新しい香りも、是非お試し下さい。

●新商品紹介

沈香好木「煙ひかえめ」(二連物用)

「好文木」の伝統的な香りはそのままに、煙をおさえた新しい時代のお線香として、「二連物用」しております。沈香好木「煙ひかえめ」に、新たに二連物にふさわしい桐箱入りになりました。是非ともご利用頂きますようお願いいたします。

さわやか檜の香り(二連物用)

百パーセント天然精油使用で、ご好評頂いております。「さわやか檜の香り」でございますが、この度二連物用として「煎寸五束入り桐箱」を新発売させて頂くことになりました。桐に含まれるアルファピネンやボルネオールといった成分には、気分をリフレッシュさせるアルファ波を出現させる働きがあるといわれています。是非とも、森林のすがすがしい香りのお線香を先様にもお届け頂きますよう、ご案内いたします。



沈香好木
(煙ひかえめ)
5,000円
[消費税別]



さわやか 檜の香り
5,000円 [消費税別]

●話題

新関西人図記に掲載

関西で活躍する人物を紹介する

の社長として、伝統を守りながらも、時代に合ったお線香も作り出していることとする意気込みや、香り文化への姿勢など、中田社長の考えや、ひととなりを通して、現在の梅栄堂の姿が幅広く紹介されました。

テレビ「はなまるマーケット」で放映

TBS系全国ネット、「はなまるマーケット」は、朝の人気番組の中でもクイズコーナーは終らしのアイデアが満載。今回はユニークな香りのお線香として「残香飛」がクイズの問題に取り上げられました。

伝統と新時代の香り

読売新聞朝刊の会社紹介記事「元気印」では就任二年目十六代目の梅栄堂社長取材。合成香料を使うお線香メーカーが多い中、天然香料を使い続ける当社の姿勢を紹介。「いいものを出せば、

産経新聞の「新関西人図記」では五日間に渡り梅栄堂の中田信浩社長をクローズアップ。新世代

お客様に認めてもらえることがわかった」と社長のことばで結んだ。

NHKテレビ「かんさいニュース」は「関西の今」を伝える同番組では、線香最新情報と題して、お盆を前にして忙しい梅栄堂の線香工場から生中継。製造工程を紹介すると共に、時代とともに変わっていくお線香事情を中田社長がインタビューに答えました。

残香飛

マスコミで大反響

昨年二月に発売した新しいタイプのお線香「残香飛」は、発売直後からたいへんな反響を頂き、マスコミ各社からの取材も相次ぎました。おかげさまで話題が話題を呼び、「残香飛」は予想を上回る大ヒット商品となりました。

